

福井市泰澄寺のハチ——生態的遺物

常 木 勝 次

The Taichôdzi Temple — An Ecological Relict in the City of Fukui

By K. TSUNEKI

タナカマエダテバチの雄発見さる

K. Tsuneki: The male of *Psenulus tanakai* Tsuneki

生物研究 (福井) 第 XIII 卷 第 3-4 号 58~62 頁別刷

Reprinted from *The Life Study (Fukui)*, Vol. XIII, Nos. 3-4, pp. 58-62

October 30, 1969 λ λ

ギングチの原記載は

Rhopalum (*Rhopalum* Sect. *Rhopalum*) *hakodatense* Tsuneki, Akitu, 9 (3.4) : 51, 1960.

で、函館で得られた1♀に基づいて行なわれたが、その後この種はどこからも発見されていない。泰澄寺のものは原種に比べて

(1) 腹柄がやや短く、ずんぐりしている。ハコダテではその最大幅：最小幅=10.5 : 5.0, 長さ：最大幅=32 : 10.5; 新亜種では前者は10.0 : 5.5, 後者は28 : 10である。腹柄後部のふくらみ方は、ニツボンギングチに類して太く、後方のくぐれはエゾなどに比べて幅広い。

(2) 尾域のくぼみはハコダテでは全体が正中線に向かって弱く傾斜するが、これでは先半中央がやや深く長楕円状にえぐられている。

という違いがある。これによって新亜種を創設したわけである。このハチの狩る prey は小形双翅類である。

24. *Rhopalum* (*Calceorhopalum*) *calceatum* (Tsuneki) クロタビギングチ

この種にも*をつけてもよいように思われるが、しかし福井では、この種はまだ市内の足羽山や八幡山の公園でとれるので、しばらく*を保留することにする。一般的に言えば、この種は明らかに山地種であって、低地では見られないものである。泰澄寺のものが、寺内で繁殖しているかどうか明らかでないが、後方山地から飛来した可能性が強いようだ。ただし、この山(高さ平地より30m前後)と寺との間は現在は広い工場によって連絡をたたれている。

* * *

以上がこの寺のめばしいハチなかまでであるが、このほかに私がタイチヨウキマダラハナバチと仮称している珍奇な寄生蜜蜂がいる。また数年前までは確実に見られ、近年姿を見かけなくなってしまったものに北西の坂地に住んでいたキイロクシケアリ *Myrmica laevinodis* Nylander がある。このアリは完全な山地種で福井県では嵐や小池の山へ行かなければ出会うことのできないものだ。泰澄寺にいれば残存種の筆頭にあってもよいほどの種だが絶滅したらしいのは残念である。これは近くの工場の従業員が、昼の休時間におおせい境内へ遊びにくることと、関連しているかもしれないのである。なおアリと言えば多くの普通種に混って、ヨツボシオオアリもおおることを付記しておこう。

タナカマエダテバチの雄発見さる

K. Tsuneki: The male of *Psenulus tanakai* Tsuneki

Closely allied to *P. pallipes yamatonis* Tsuneki, differing from it in the following characters: (1) Flagellar joints of antennae longer, more markedly so at the apical joints, (2) punctures on mesonotum finer and sparser, (3) punctures on abdomen larger and more distinct, (4) longitudinal striae on posterior margin of mesonotum longer, stronger and more distinct, (5) hind tarsi darkened on basal half.

今夏南部敏明氏より、同氏が埼玉県西部山地の太陽寺で採集したマエダテバチの送付をうけ、検した結果、これが現在まで未知であったタナカマエダテ *Psenulus tanaki* の♂であることが明らかになった。同氏によると、この種は同地に多産する由で、更に1♀9♂の寄贈をうけて変異を調べた結果、最も近似する(私の検索表ではそこへ行く) *P. pallipes yamatonis* (ヤマトマエダテ)と、次の諸点で区別できることがわかった。

(1) 触角鞭節がより長く、特に先半部でより明瞭、(2) 中胸背の点刻がより細かく、より疎らである、(3) 腹背の(特に第3, 4節で)点刻がより大きく、より明瞭である、(4) 中胸背後縁部の縦条がより長く、より強い、(5) 後付節は基半部で黒味が強い。 (常木勝次)